

視点2 『環境整備』

(1) 落ち着いた取組を促す

(ア) 教室前面や黒板の掲示物等を精選して、教室環境を整えるなどで、注意を集中しやすくする

【学級の様子】

・ 掲示物やいろいろな所に目移りし、板書の大切なポイントに集中できない子どもがいる



【工夫のポイント】



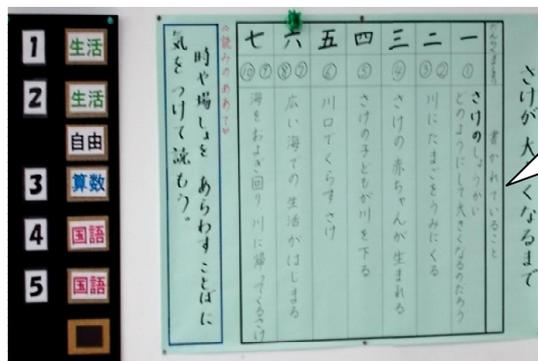
◎ 教室前面の掲示物を必要最小限のもので掲示

* 本日の学習予定表を掲示する

* 前時までの学習内容（振り返り）を提示する

◎ 全教室で統一した掲示計画

* 教室側面「めざす児童像・児童個人のめあて」など



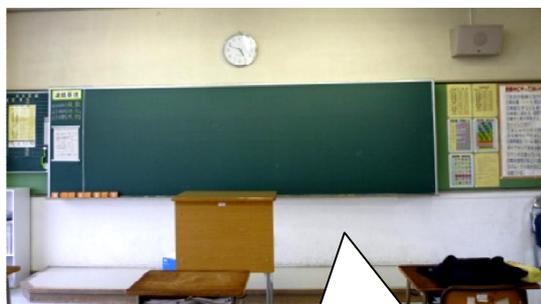
(小学校)

「今日の学習予定が確認できるね。」



「学習計画が掲示されていて、どこを勉強しているかがよく分かる。」

「教室や黒板の周りがすっきりしているから、授業に集中できるんだ。」



(高等学校)

「黒板の周りがすっきりと整理され、学習に集中しやすいわ。」



(小学校)

(小学校・高等学校の例)

視点2 『環境整備』

(1)落ち着いた取組を促す

- (1)写真やラベル等により場所の手がかりや見本を示すなどで、自分で判断し取り組みやすくする

【学級の様子】

- ・全体的に落ち着きがなく、友だちのことを気にする子どもが多い
- ・清掃用具がいつもバラバラ、毎日、毎日、同じ注意ばかりしている



【工夫のポイント】



◎視覚的な資料を活用

- *絵カードを活用し、始業前の活動手順がわかるようにする
- *ビニールテープで色分けをして、使用場所がわかるようにする

◎清掃用具の置き場所を視覚化

- *清掃用具入れの内側に、整理整頓された状態の写真を掲示する



「机の位置、水筒を置く場所、使用するロッカー、すべて写真で示してあるからわかりやすいね。」



「机の位置はこの線が目印だよ。」

(小学校)



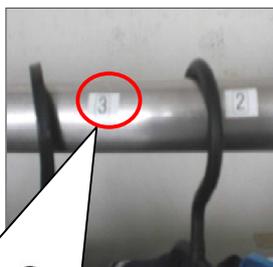
「写真を見ながら、元の場所へ下げて整理整頓。」



(小学校)



(中学校)



「制服をかける棒に番号で示してあるから、自分のものがわかりやすいね。」



(中学校)



「黄色のテープに番号が書いてあるから、どこにかければよいかわかりやすいね。」

(小学校・中学校の例)

視点2 『環境整備』

(1)落ち着いた取組を促す

(i)写真やラベル等により場所の手がかりや見本を示すなどで、自分で判断し取り組みやすくする

【学級の様子】

- ・自分から進んで掃除をすることが難しい子どもがいる
- ・拭き残しや掃き残しが多い



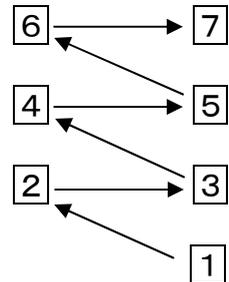
【工夫のポイント】

◎拭く順番を視覚的に提示

- *拭く順番がわかるように数字で示す
- *テーブルにビニールテープで目印をつける

◎ゴミを集める場所や道具を置く場所に目印をつける

- *ビニールテープで床に枠取りをしてゴミを集める場所を示す



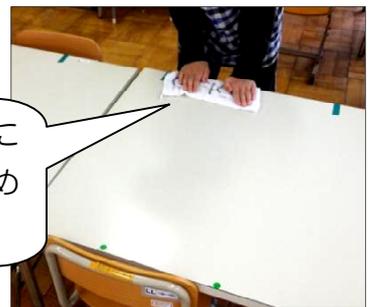
「番号順に拭いていけば端から端までふけるよ。」

(小学部)



「集めやすいよ。」

(小学部)



「ビニールテープに合わせて拭き始めます。」

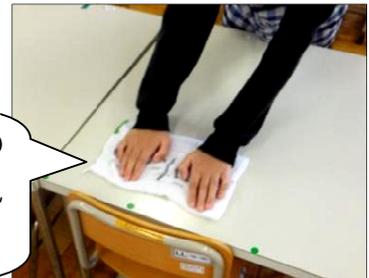
(高等部)



「ちりとりはここに合わせて！」



「まっすぐテープの所まで拭くと、きれいに拭けるよ。」



(特別支援学校の例)

視点2 『環境整備』

(2)見通しをもつことを促す

(ア)板書やタイマー等により終わりの時間を示すなどで、時間的な見通しをもちやすくする

【学級の様子】

- ・着替えや片付けに時間がかかる
- ・活動になかなか取り組めない



【工夫のポイント】



◎タイマーを使い、見通しをもたせて活動

- *時間を視覚化する
- *がんばれば終わるくらいの時間設定にする

(タイムタイマー)



(小学校)

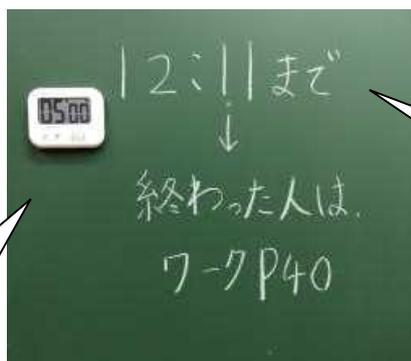


「残りの時間は赤いところだからね、あとどれくらいかわかりやすいよ。」

「0になるまでに着替えをすればいいんだな。」



「市販のキッチンタイマーなどでもOKです。」



(中学校)



「終わりの合図や次のめあてが書いてあるから自分で解決できるよ。」



「自分のペースで取り組めるようにします。」
「机間指導で個別に対応できます。」

(小学校・中学校の例)

視点2 『環境整備』

(2)見通しをもつことを促す

(1)取組の手順に番号をつけて事前に提示するなど、活動内容の見通しをもちやすくする

【学級の様子】

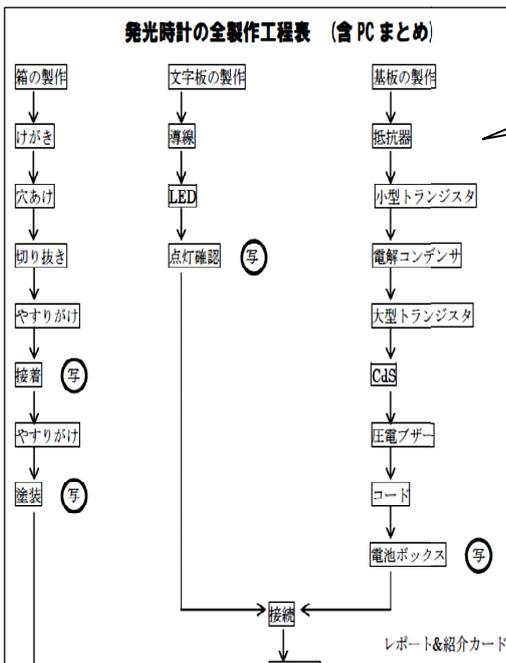
・学習の見通しをもつことが難しく、どうしてもよいかわからなくなってしまう



【工夫のポイント】

◎学習の流れや学習計画等を視覚的に掲示

* 練習問題や発展的課題に取り組む順番を板書する



(中学校)



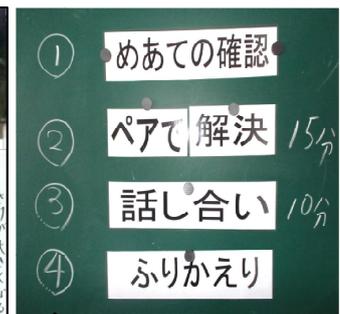
「いま、どのあたりを学習しているかは、図を見てもわかるから安心だね。」



「学習計画を文字と絵を使って掲示することで、見通しがもちやすくなります。」



(小学校)



(小学校)



「教科が違って学習の流れは同じだから、安心してがんばれる。」



「何ページの練習問題をやればいいのか確認できて安心。」



(中学校)

(小学校・中学校の例)

視点2 『環境整備』

(2)見通しをもつことを促す

- (1)取組の手順に番号をつけて事前に提示するなど、活動内容の見通しをもちやすくする

【学級の様子】

- ・不安感が強く、行動に移すことが難しい子どもがいる
- ・やり方がわからないと、指示を待つことが多い



【工夫のポイント】



◎取組の手順を視覚的に提示

- *文字に、写真や絵を添えて手順表を作る
- *取り組む順番に番号をつける
- *会や式の流れを視覚的にわかりやすく示す

「苦手な健康診断も、手順表を見てから受けると、安心して受けられたわ。」



(耳鼻咽喉科・内科健診：小学部)

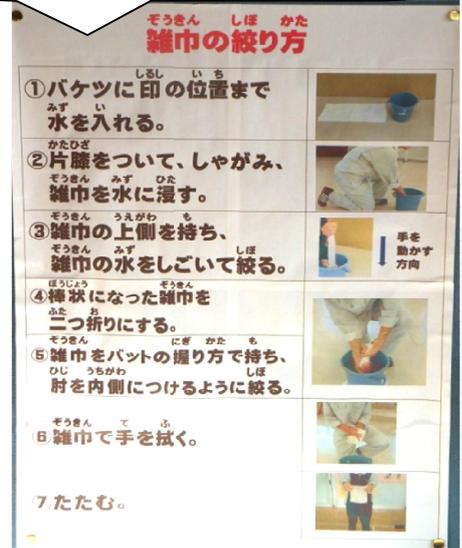
「めくり式の手順表もあります。」



(調理：小学部)

「めくり式は、やるべき活動がはっきりするね。」

「清掃マニュアルの『雑巾の絞り方』をはってあるから、確認しながら絞っています。」

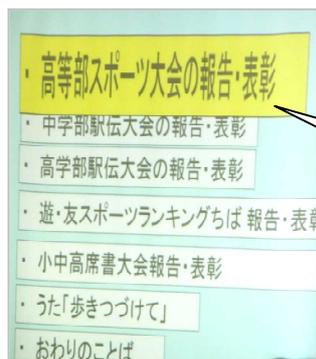


(掃除：高等部)



(身体測定：小学部)

「絵で確認してから保健室に行くと、大丈夫だったよ。」



(集会：全校)

「流れを映像で提示します。今やっている部分を強調します。」

(特別支援学校の例)

視点2 『環境整備』

(2)見通しをもつことを促す

(㊦)年間計画、週予定や日程等を視覚的に提示するなど、学校生活の見通しをもちやすくする

【学級の様子】

・行事予定などについて確認すると、「忘れました」「聞いてません」などの返答がある



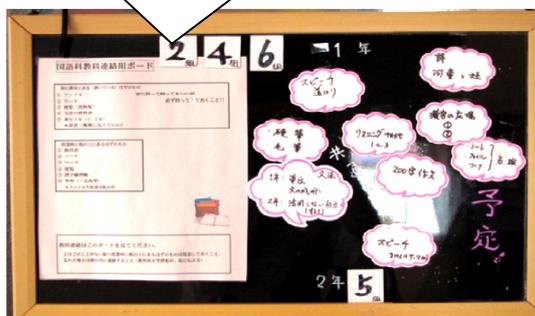
【工夫のポイント】

◎視覚的に情報を提示

- * 日程の変更やその日の諸連絡等は、ミニボードで知らせる
- * 行事等の連絡事項は、用紙に書いて掲示する
- * 定期試験等は、年間の予定について掲示する

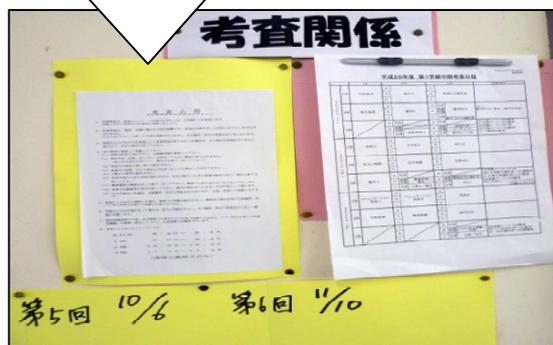


「日程の変更や諸連絡は、ミニボードで知らせてくれます。」



(中学校)

「定期試験の準備も計画的にしっかり立てられるね。」

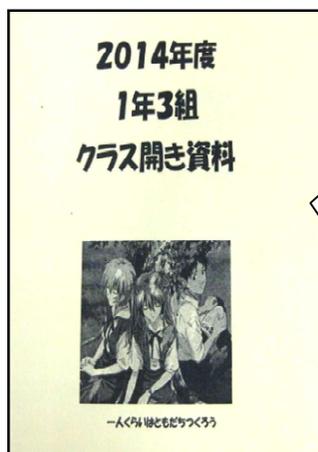


(高等学校)

「その日の予定と、時間の確認ができるから安心です。」



(小学校)



(高等学校)



「クラス開きの資料には、年間の予定やクラスの決まりなどが書いてあり、いつでも読み返したり確認したりできます。」

(小学校・中学校・高等学校)

視点2 『環境整備』

(3)書くことを調整し思考を促す

(7)書く時間の保障、板書する速さや間などの配慮で、よく考え視写しやすくする

【学級の様子】

- ・ 授業時間内に作業の記録やノートを書き終わらない
- ・ 板書を視写することに気を取られ、思考活動に注意を向けられない



【工夫のポイント】



◎考える・書く・発表等の活動の区切りを明示

* 適量の板書と、ノートをとる時間を考慮する

* 書く時間と文字数を提示するなど、取り組みやすい状況を設定する

| 回 | 月日 | 使った道具やソフトなど | その感想 |
|---|----|-------------|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

(中学校)

「書く時間が確保されるので、ていねいにノートに写せるし、安心して授業に臨めるよ。」



(高等学校)

「文字数が見えるから、あと何文字かわかりやすい。」

「そうか、5分で書き終わるように。」
「文字数も20文字、これなら出来そうだ。」



(小学校)

「僕たちが考えたり書いたりする速さに合わせて、先生は書いてくれるよ。」

「だから、落ち着いて取り組めるんだ。」

(小学校・中学校・高等学校の例)

視点2 『環境整備』

(3)書くことを調整し思考を促す

(1)代替手段(板書計画に則したプリントやタブレットPC等)を活用するなど、書字に対する負担を軽減し、思考に集中しやすくする

【学級の様子】

- ・書くことに困難さをもつ子どもがいる
- ・書くことに時間がかかり、考えることができなくなる



【工夫のポイント】

◎板書を写すことに関してタブレットPCで代用

- * 1時間の授業終了後、タブレットPCを使用して板書を撮影する
- * 板書は1時間の内容が収まるように計画する



◎個別の配慮を支えるための学級全体への支援

- * 聞く時、書く時、考える時を明確に指示する
- * 子どもの良いところやがんばっているところを、その都度全体の場で称賛する



「板書は後で撮影できるから、今は考えることに集中できるよ。」

「考える時間があるから発表もできるよ。」



「友だちの発言は相手の方を見て聞くように子どもたちに伝えています。」

「どの子にも『なるほど、いい意見だね』など、その都度肯定的な言葉をかけています。」

「黒板係は、Aさんが撮り終わるまで消すのを待ってあげるよ。」



「板書は、授業が終わってからタブレットPCで撮るんだ。」



「板書を写すことは苦手だけど、書けるところまでがんばるよ」

(小学校の例)

視点2 『環境整備』

(3)書くことを調整し思考を促す

(1)代替手段(板書計画に則したプリントやタブレットPC等)を活用するなど、書字に対する負担を軽減し、思考に集中しやすくする

【学級の様子】

- ・ひらがなや数字は読めるが、手の操作性に課題があり書くことが難しい子どもがいる



【工夫のポイント】

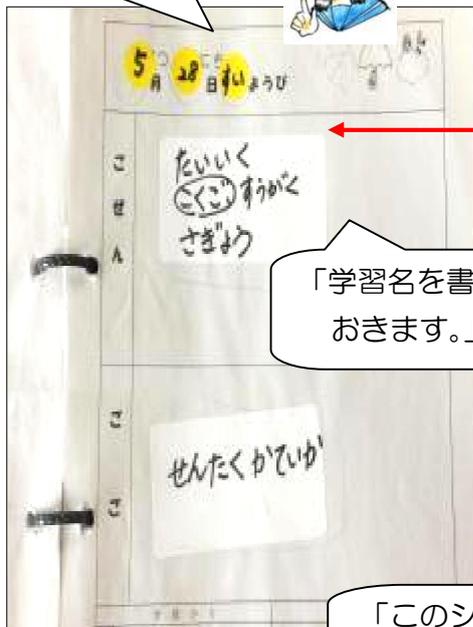
◎文字等を書いたシールの活用

*丸シールを使って、ひらがなや数字のシールを作る

*連絡帳への記載は、ひらがなや数字のシールを生徒自身が自分で選んで貼る



「書くことが難しくても、シールをはることはできるから、自分で連絡内容を記録することができるよ。」



「学習名や数字、曜日のシールを作って分類しておくことで、自分から取り組めるようにします。」



「学習名を書いておきます。」



(高等部)

「このシールを使うことで、作文も作れたよ。」



(高等部)

(特別支援学校の例)